

令和5年度 春・夏期「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容

	公開期間	公開内容	公開作品
春期	<p style="text-align: center;">4月20日(木)～ 6月18日(日) 60日間</p>	<p style="text-align: center;">花の回廊 ～黒書院牡丹の間～</p> <p>黒書院の牡丹の間は、黒書院の東側の廊下にあたります。寛永3年の大改修時、二の丸御殿の廊下はすべて華麗な花鳥図や花木図で飾られましたが、幕末までに大半が失われました。そのような中で、牡丹の間の襖や壁に描かれた牡丹図は当時の貴重な生き残りです。しかも北側壁面の牡丹図2面は、寛永期より古い様式で描かれており、慶長期すなわち徳川家康の時代に描かれた可能性もあります。梅図は、制作当初は、大広間と遠侍の納戸の間の襖絵であったものが、明治時代の大修理の際に牡丹の間東側の戸襖に貼りなおされたものです。寛永期を偲ばせる牡丹図と、形を変えて伝わった梅図。二の丸御殿の変遷の証言者でもある花の障壁画を間近からご鑑賞ください。</p>	<p style="text-align: center;">黒書院牡丹の間障壁画 牡丹図、梅図</p>
夏期	<p style="text-align: center;">7月13日(木)～ 9月10日(日) 60日間</p>	<p style="text-align: center;">勅使を迎える青楓 ～遠侍勅使の間～</p> <p>昇殿者の控えの場である遠侍の北東に設けられた勅使の間は、上段に、天皇の使者である勅使を迎えたとされます。主の書斎としての意味をもつ書院が設けられていないなど、御殿内の他の対面所と違う設えになっています。また、部屋全体に植物が描かれ、穏やかな雰囲気醸し出されています。大床と帳台襖に描かれているのは、春に赤色の葉を芽吹き、葉先にその色を残しつつ緑色へと変化した青楓。金雲を突き抜ける青楓と腰障子に這う低木の桃が描かれる対比は、見るものを楽しませます。狩野甚之丞によるこの絵は、桃山時代の画風を残しています。二の丸御殿の中に設けられた朝廷のための部屋を、さわやかに彩る青楓をお楽しみください。</p>	<p style="text-align: center;">遠侍 勅使の間障壁画 楓檜桃小禽図</p>